



伊豆市

No.11

議会だより

発行：伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集：議会報編集特別委員会
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606 2007.2.1発行



昨年の12月定例会で修善寺小学校6年生が議会傍聴をしました。(P.16に感想文)

目次 CONTENTS

■ 議長『新春のあいさつ』	2
■ 市長行政報告	3
■ 議員『新年の抱負』	4
■ 12月定例会の概要	6
■ 一般質問	8
■ 特集『今、伊豆市のいじめは…』	13
■ 意見書・決議	14
■ 行政視察報告	15
■ 市議会傍聴記・編集後記	16

平成19年 新春のあいさつ



伊豆市議会
議長 堀江昭二

昨年を省みますと我が伊豆市にありましては、基幹産業である観光業の停滞する中で、動く広告塔ともいえるべき「伊豆ナンバー」の誕生、「第二回伊豆市まるとTOO-JI博覧会」や「ねんりんピック静岡2006」等が開催されましたことは、伊豆市の観光行政の活性化の原動力として、又、交流人口の増加が大変期待されます。

さらに、少子化が著しい中で伊豆赤十字病院の産婦人科診療が再開されたことは大変喜ばしいニュースでありました。

さて、合併四年目を迎える本年、伊豆市の環境整備にあつては、日向地区に建設中の新火葬場が平成二十年四月供用に向けて順調に事業が進められております。

また、ライフラインの整備では天城北道路の大平ハイフィンターまでの供用開始も秒読みの段階となっており、国道136号線土肥新田地区の狭隘区間の拡幅改良工事についても着々と推移しております。

さらに、修善寺天城湯ヶ島線矢熊地区の狭隘区間四百メートルも、平成二十年完成に向けて工事が着手されました。

今後の課題としては田方消防支署の統合が進められる中にありまして、「田方消防南署」の建設が日向地区に決定し、造成工事が進められております。今後は統合により、消防署から遠隔地となる地域へのスムーズな消火、救急活動の要となる県の合併支援による日向地区県道のバイパス工事や大平地区へのアクセス道路の早期整備が望まれる状況にあると共に、議会としても重要な課題でもあります。

瞬く間に合併四年目を迎えますが、この間、国が地方分権型社会の実現に向けて、税源移譲・国庫補助金の削減・地方交付税改革等々を進める中で、少子高齢化の著しい我々地方都市にあっては、財政状況を鑑みますと先行きに大きな不安があります。

今、社会・経済環境が大きく変遷する状況下、伊豆市にあつても早急な改革が求められる状

況にあります。

伊豆市においても伊豆市総合計画の目標実現を目指す上で行政改革の一環として「集中改革プラン」が作成され、現在、事務事業の評価等が行われております。

皆様市民にとって住みやすい環境整備のための施策や住民サービスの維持、向上、そして「任んで良かった、住みたい街づくり」に向けて、我々議会は行政の議決・チェック機関として市民の期待に応えられるよう議員一丸となって努力する所存であります。

今後とも、市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様方のご健康とご多幸を祈念し新年の挨拶といたします。



12月定例会

伊豆市の動き

市長行政報告

厳しい財政状況のもと、行政運営のより一層の効率化を図り、もろもろの施策を軌道に乗せるとともに、来年度に向けた予算編成を慎重に行い、伊豆市の発展のためにも、さらなる行財政改革を推進してまいります。

伊豆の国市と共同のごみ処理施設整備の取組み状況

平成24年度の供用開始に向け、10月から3月の工期で、基本構想を、472万円で日本技術開発株式会社に発注しました。

建設候補地に関する取り組み状況は、堀切区の焼却場検討委員会9名による先進地視察が行われました。11月に堀切区民に対し説明



会を開催し、その後、堀切区周辺の沢、神島、熊坂、ニュータウン、山田の5地区の役員を対象とした説明会を開催しました。今後も、地域の皆様にご理解とご協力を求めています。



田方南消防署建設事業

今年度の事業計画である、地業工事及び造成工事の請負業者は、伊豆市熊坂の中豆建設㈱が、地業工事を3、480万円、造成工事を2、397万円それぞれ受注しました。工事期限は、平成19年3月31日となっております。

平成19年度

静岡県総合防災訓練

静岡県防災局長より、平成19年度の防災訓練について、県と伊豆市との共催により実施したいとの依頼があり、予想される災害への備えとしても非常に重要であることから、正式に受託することとなりました。現在、県防災局と基本計画を策定中であります。

訓練実施日は9月1日土曜日に設定いたしました。4つの地区に訓練会場を設置する計画であります。基本計画が決まり次第、内容に沿った場所を決定したいと考え

しておりますので、関係各機関のご協力をお願いいたします。

イベントは大盛況でした

秋には、多くの催しが行われました。ウェルネス事業の一環として、昨年引き続き実施された「TOO-J博」は、実績等はまだまだ出ておりませんが、誘客のための商品化に結びつくものと考えております。また、「修善寺温泉花かざりまつり」は、お客さんにも好評で、今後のまちづくりにつながるものと願っております。

なお、10月28日から30日までの3日間実施された、「第19回全国健康福祉祭しずおか大会ねんりんピック静岡2006」では、多くの皆様のご協力のもと、無事祭典を終了することができました。また、「ホリデーイン伊豆」では、多くの方にお越しいただき、大盛況でした。皆様のご支援・ご協力、誠にありがとうございました。



総務委員会

塩合同司議員（委員長・前列中央）

合併して四年目をむかえる伊豆市。夢を持てる伊豆市をつくるため行政、市民、議会一体の協働、その一員として全力を傾注するつもりです。

古見梅子議員（副委員長・前列左）

子ども、高齢者、障害者を真ん中においたまち。花いっぱいの中。市民協働で築きたい。嫁に行きたい、平和な地域社会を。生きがいを持って、元気に暮らす人々の笑顔の輪を広げ、「心」美し。「山河」美し郷土、伊豆市を目指し、努力します。

内田勝行議員（後列左）

伊豆市は人口を増やす様々な取り組みをしています。中でも、ふ

れあいパーティーは少子化対策の基本的役目を担っています。今後結婚相談員の経験を生かし、側面から協力して行きます。

木内一郎議員（前列右）

合併して四年目を迎える。課題は山積みしている。ゴミ焼却場の早期完成、交通渋滞の緩和、安心して子育ての出来る住環境、教育条件整備、急激に進む高齢化社会に向けて福祉の充実、住みよい町、住んでよかった町に向けて、さらなる努力をしたい。

小野宏議員（後列右）

合併後の国の支援措置がある間に、歳出削減の道筋をつけ、自主財源（市民税、資産税等）の強化に注力して財政基盤を固めなければならぬと思います。今年はこの目標に照準を絞り、更に積極的な提案と働きかけをおこないます。

遠藤正寿議員（後列中央）

議長在職中は大変多くの市民の皆様方にお世話になり、厚くお礼申し上げます。合併四年目を迎えるに当たり、大変厳しい財政状況下ではありますが、市民の公平性を念頭に旧町時代の格差是正に向けて重点的に取り組んで行く所存です。



福祉文教委員会

室野英子議員（委員長・前列中央）

昨年一番嬉しかったのは、日赤の産婦人科の再開です。突然、閉鎖を聞いた時は、不安と焦りを感じました。署名活動には、議員として全力で奔走し、多くの方に賛同と協力を頂きました。今年も、皆様の声を聞き、働くべき時には全力を尽くします。

小森勝彦議員（副委員長・前列左）

昨年、特別委員会を設置して取り組んだ行財政改革ですが、中途半端に終わってしまいました。行財政改革特別委員会の委員として、今年こそは実効性のある提言を通して市政の刷新に務めます。

杉山 誠議員（前列右）

人口減少や少子高齢化が進み、

市の活力低下が心配されます。住民福祉の向上にしっかりと取り組み、住む人にも訪れる人にとっても魅力あるまちづくりのために、全力で働きます。

飯田正志議員（後列左）

合併して約三年。市民の方々から合併してもいい事はないと言う声が聞かれます。急激な変化というものは出来ませんが、少しずつでもよくなるように、合併の特例を最大限に利用しつつ、行政と共に協力し合って、努力していきたいと思っています。

酒井勲一議員（後列中央）

初夢、傍聴人席がいつも一杯だあ：緊張。猪突猛進↓議会改革
 (1)市民の皆様様に市議会へ感心を示して頂くには：どつする。
 (2)議員の数を削減するには：。
 この二つを重点項目として活動します。

木村建一議員（後列右）

「財政が厳しい」というものの、市民が望んでもいない事業に税金投入です。市民生活を左右する権限を持つ議員の責任は、重大です。みなさんの気持ちに身を寄せて、今年もがんばります。



観光経済委員会

加藤 章議員（前列左）
 行財政改革の更なる推進と、常に市民の声を行政に反映出来る努力をします。

磯 晴雄議員（前列右）

待望の特別養護老人ホームが伊豆地区八幡に本年六月完成予定で工事が着工されており、八月には入所が始まります。私はこの施設が自然環境との共生、人と人との共生、そして地域の活性化が図れるよう努めます。

大川 孝議員（後列中央）

市民が期待する住み良い社会の実現に向けて、しっかりとした将来ビジョンを持ち、行財政改革プランが実践できるよう提案していきます。そのためにも、市民の皆様の声に誠実に耳を傾ける姿勢を墨守したいと思えます。

三須重治議員（後列左）

伊豆市の財政は同規模の自治体に比較しまだまだ肥満状態です。行財政改革をより前進させ、贅肉を落とし住民サービスの向上を図るべく努力致します。

関 邦夫議員（委員長・前列中央）
 痛みはあっても、行財政改革で国は確実に前進しています。伊豆市は再合併が頭にあると、あやふやな時間が経過し、郷土愛が生まれません。合併での遠隔地は、良い事は少ない。良策で伊豆市建設のため頑張ろう。

鈴木基文議員（副委員長・後列右）

◎みなさんと一緒に

こんな伊豆市に…

- ウエルネス事業に参加←
- 市民の皆さんの健康増進←
- 国保などの給付費の削減←
- 子育て支援の充実←
- 伊豆市ブランド確立



土木水道委員会

山下 一議員（前列左）

伊豆市の財産は恵まれた自然と人情厚い人柄です。都会の人達はこの自然に憧れ、手に触れる喜びに浸ります。萬城の滝周辺整備、中伊豆体験農園、古里案内人と今年も魅力ある郷土づくりに汗を流し、交流人口の増大を図りたい。

森 良雄議員（後列右）

伊豆市の適正財政規模は100億円です。財政の適正規模への軟着陸が必要です。透明で公正な行政の確立とコンプライアンスでモラルの向上を進めます。市民を大切にすまことにしましょう。

杉山羌央議員（後列左）

昨年十一月より議会運営委員長を拝命し、堀江議長の下でスムーズな議会運営が出来ますよう、委員各位のご協力を頂き、伊豆市政の健全な発展に寄与すべく微力ではありますが全力で任務に当たりますので、ご支援を宜しくお願い致します。

鍵山堅二議員（副委員長・前列右）

伊豆市には、素晴らしい歴史と文化が沢山あります。静岡空港も着々と進んでいる中、空港が他県の中継地点にならないよう、伊豆地域へ。そのために市民の皆様と一緒に魅力ある伊豆市づくりをして行きたいと思えます。



平成18年第4回定例会の 概要と各委員会での質疑

会 期

平成18年12月7日から
12月21日（15日間）

提出議案

〔平成18年度補正予算〕
平成18年度伊豆市一般会
計補正予算（第3回）

他6件

〔案 例〕

伊豆市丸野高原観光施設
条例の制定について

他3件

〔その他〕

静岡県後期高齢者医療広
域連合の設置について

他4件

〔人事案件〕

農業委員会委員の議会推
薦

三須重治議員の辞職に伴
い、酒井勲一議員が推薦
されました。
以上、すべての議案等は
可決されました。

各委員会では次のような
質問がありました。

総務委員会

◆時間外勤務手当

質 時間外手当の補正33
7万8,000円増額の主
な要因は、ねりんピック
など関係があるか。

答 ねりんピックなども
あり時間外手当が増えてい
ます。11月から、時間外勤
務は部長の指導の管理下で
行います。



昨年盛大に開催されたねりんピック（天城ふるさと広場）

◆特別交付税について

質 特別交付税、2億6,7
00万円に関連して、特別
交付税の交付のしくみと状
況は。

答 特別交付税の意義から
すると、県の裁量により、
6%の中で計算される。12
月と3月の2回交付される。
今回の分は、合併の包括部
分が主体です。

◆日向区・佐野区

事業協力交付金

質 火葬場建設に伴う日向

区・佐野区への事業協力交
付金2,000万円につい
て

答 事業協力交付金の交付
主旨は、火葬場建設につい
て両地区にご理解とご協力
をいただいくものです。

◆静岡県後期高齢者

医療広域連合の設置

質 関係市町の負担金の程
度、並びに伊豆市の位置、
又、負担額について、国県
の補助は。

答 19年度の事務費関係は
617万6,000円ほど
になる見込みで、平均より
少し下です。財源について
は、全額市の負担となりま
す。



福祉文教委員会

◆臨時雇い教員の確保

質 産休教員の代替体制は
どうなっているか。

答 登録制度をはじめたが、
人材がいなくて困っている。
退職教員にもあたっては
が、希望者がなかなか見つ
からないのが現状です。

◆田方ゆめワーク

質 障害者自立支援法施行
で、利用者サービスに不安
の声があるが現状はどうか。

答 18年度は以前と変わら
ない。今後も受給者に迷惑
のかからない方法でいき
たが、市の財政負担が非常
に多くなるので調整、検討
しています。

◆介護予防

質 介護予防計画作成業務
委託料が2,495万4,0
00円減額だが、介護予防
の後退ではないのか。

答 制度の切り替えに伴う
もので問題はないと思っ

います。今後要支援に回る人が増加するので、地域包括支援センターの業務委託を検討中です。

◆保育園民営化

法人選定委員

質 保護者の理解が得られない中で、委員の選定はおかしい。手順を踏んでいただきたい。

答 民営化で重要なのは法人の内容です。選定委員会で保護者の意見も踏まえて選定基準を作っていきます。そうしないと民営化の内容について十分な説明ができないと考えています。



観光経済委員会

◆有害鳥獣対策

質 有害鳥獣捕獲事業に300万円の補正をしたということは、多くの被害が出たということですが、次年度に対する考えは。

答 この被害への対応は、市単独で行っています。県の補助事業もありますが、規模が100万円以上や、2戸以上の関係者が関わらなければいけないなどの条件があります。県の補助対象が増えれば、市の支出が少なくなる可能性もあります。

◆平塚市市民休養の郷

(ひらつか天城山荘)

質 天城ふるさと広場にある、平塚市の施設の管理執行事務の委託を廃止するにあたり、今後の問題点はあるか。

答 平塚市から無償譲渡される財産は、山荘、キャンプ場、体育館です。これら

の施設運営上の剰余金については、両市で今後協議していきます。

◆修善寺温泉

開湯1200年祭

質 県からの補助金の説明を。

答 この補助金の窓口は、東部地域支援局です。出るのは、県の生活文化部です。今回補正での歳出600万の内、県から400万円、市から200万円支出します。



開湯1200年を迎える修善寺温泉 独鈷の湯

土木水道委員会

◆市道上和田線改良工事

質 750万円の内訳は。

答 県道からワイナリーへ通じる市道の改良工事、大型バスが入れるようになるためのものです。県の補助金1/2、市が1/2を負担します。中伊豆ワイナリーの負担も予定されており、その負担割合については調整中です。

この路線の改良は19年度、20年度にも予定されています。

◆天城北道路関連事業

質 2,420万円の減額は。

答 再検討の結果、やる必要がないと判断しました。19年度に国道との取り付け部分で農道整備をお願いしたい。発注した工事がストップしているものがありますが、21年度には何とかしたいと考えています。

あなたも議会傍聴をしてみませんか

天城湯ヶ島支所 議場 午前9時30分～

3月定例会の

日程

2月26日(月)

市長施政方針

議案上程

提案理由説明

3月1日(木)

議案質疑

委員会付託

12日(月)・13日(火)

一般質問

16日(金)

委員長報告

質疑

討論

採決

※都合により、変更となる場合があります。

市政を問う 一般質問

12月定例会での一般質問は12月11日・12日の2日間に、18名の議員が48件について行いました。質問と答弁を要約してお知らせします。

※紙面の都合上、一議員一質問です。詳しくお知りになりたい方は、各図書館・議会事務局で会議録をご覧ください。

伊豆保健医療センターの一部事務組合化の経過と是非について



質問 伊豆保健医療センターは、永年経過するなかで、今後の財務状況を考慮すると、診療報酬の改定による外来患者の減、医師確保の困難さ等多くの不安材料が予測される。その対策として、財団法人から社団法人に委託する一部事務組合化が計画されているが、その経過と一部事務組合化の是非について聞きたい。

木内一郎議員



財政面を考慮し、よい方向 を見い出したい



答弁 同医療センターは、永年の役割を果たしてきたが、近年、医療制度の改革に伴い医師確保に苦慮している。運営上の諸問題を検討している中、社団法人地域医療振興協会に委託する案があるが、受託条件が厳しく、高額の財政負担が必要になる。さらに、良い方向を見出した

行政の透明化、談合は いか？入札制度の改革は



質問 工事場所と業者の位置に関係はありませんか。入札業者への過去5年間の発注状況はいかがですか。体育館は特定業者にかたよっていないか。電子入札の導入準備はいかがですか。

森 良雄議員



談合はありません



答弁 体育館等の学校教育課所管の工事発注については、受注は当該業者の企業努力と認識している。電子入札の導入は平成20年度の導入で調整している。小規模事業者の対応も検討すべきと考えている。

市道矢熊笹場線の 整備計画について



質問 合併協議会での重点施策、伊豆市総合計画で早期整備が示されている矢熊笹場線の整備計画について伺う。

塩谷尚司議員



平成19年度より ルート選定の素案作成を



答弁 合併時の重点道路の位置づけで、平成17年度に林道から市道へ認定替えをした矢熊笹場線は、平成19年度から基本ルートの検討に入る計画である。天城北道路の天城湯ヶ島インター(仮称)への取り付け道路として重要であり、県と協議をしながら進めたい。

いじめ問題について

質問

私は、いじめは昔からあったし、どこの社会でもあるものだと考えている。いじめはこの世からなくならないと思っている。それならば、それに打ち勝つ方法を教えるべきだし、その知恵を授け、心身共に鍛える事をすべきと思うが、教育長はどのような考えか。

飯田正志議員

答弁

いじめは加害者が悪いというのを基本的に考えている。いじめられてもそれに負けない強さを持つというのは、私たちの基本的な論理からすると子ども達には言えない。どちらかと言えば、親がそれを言ってくれば、まだいいかなとは思っている。教育活動全てを通して子どもたちに生きる力を育成したい。

いじめの対策は学校と家庭で

いじめの現状と対策は、又、不登校はどうか。

質問

市内の小中学校でのいじめについて、教育委員会は、どのような方法で把握し、対策をしているのか。

不登校といじめは関連が深いと思われるが、現状はどうか。

室野英子議員

答弁

月例調査という方法で把握している。学校へは、いじめられる生徒側に立つことを基本に、いじめは反社会的な行為として絶対に許されないことであり、見て見ぬふりをするのも加害者であると指導するなど対策をお願いしている。不登校の理由は多種多様であり、必ずしもいじめと関連深い事例ばかりとは思わない。

いじめ対策委員会を 活用し対応

小学校の統廃合について

質問

今年5月、3地区において保護者から意見を聞く会が開かれた。報告書を読むと、統廃合に前向きな発言が目立つ地区がある。いずれにせよ、目の前に複式学級が迫っている。私達は子ども達に最良の教育環境を提供する責任がある。今後どのようなスケジュールで進めて行くのか伺う。

内田勝行議員

答弁

5月の懇談会では、小規模校のよさを訴える意見と、複式になるならば、統合したほうが子どもたちにとって良いという、両方の意見が出た。今後、統廃合の具体的な年度を示すことはできないが、来年以降、今の幼稚園児の保護者や、地域の方々も参加した懇談会を継続したい。

懇談会は拡大し継続

保護者の声に関係なく、「保育園民営化」なのか

質問

保育園民営化の理由の一つに、保護者ニーズをあげているが、いつ調査したか。柏久保育園の保護者は、「民営化反対ではないが、不明な点が多い。時期早尚です。もっと私達の意見を聞いてください。」ということだが、それでも市は、自ら決めた計画は着々と進めるのか伺う。

木村建一議員

答弁

保護者のニーズ調査は、次世代育成支援行動計画策定にあたり、アンケート調査を実施した。柏久保育園の保護者や地域住民との懇談会を継続したい。法人の募集要項の選定委員会設置は、保護者の要望意見を聞き、進めたいと考えている。

保護者の要望意見を 聞きながら進めたい

企業と産業対策について

質問

一、企業対策の現況と進捗について。

二、企業誘致及び地元企業の拡大を図るための優遇処置など諸要件の検討について。

三、市内有力企業が転出と聞いていますか。

四、伊豆コミュニティー空港の必要性の有無について。

飯田宣夫議員

優遇政策活用への体制整備を

答弁

市として企業誘致が可能な候補地の検討をしている。

市単独での誘致は困難なので、県の協議会等と連携し、優遇政策を活用できる体制の整備が必要と考えている。有力企業の転出は11月30日に会社に対し、新しい工場用地の提案をした。コミュニティー空港は必要だと考えている。

市内の雇用を守るには

質問

市内の某有力企業が、転出を考慮していることは、

既知のとおりですが、この企業は経済産業大臣のISO認定工場です。市内にある会社としては、極めて将来性の高い優良企業です。

この企業が市内に留まるように、市並びに市長はどのような対応策を講じているのか説明を求めたい。

大川 孝議員

市内存続の働きかけに努力している

答弁

市内の有力企業の転出については、市内に残留していただくように関係部局で対応しています。11月30日には商工会と協力し、工場敷地として可能な候補地の案を作成し、会社へ企画書を提出しました。

人口減少対策として移住・交流人口の増加策を

質問

人口減少時代に入った今、地方は危機意識を持って産業振興や地域間交流、魅力ある地域創りなど、さまざまな活性化策に取り組んでいく必要がある。団塊の世代の大量退職を見据えて地域全体で、移住・交流のための受け皿を整備することが重要と思うが、伊豆市としての取り組みについて伺う。

杉山 誠議員

伊豆市特有のグリーンツーリズムを

答弁

交流人口増加策は、温泉を中心とした観光や、地域資源の魅力をさらに高め、ウエルネス関連事業や、グリーンツーリズムなどに新たな要素を加えて、伊豆市特有のツーリズムを演出したいと考えている。移住の受け皿整備は特に考えていない。

イベントを交流人口の増加に結びつけよう

質問

ねりんピックのゲートボール大会が終わった。

このイベントを交流人口の増加に結びつけるために、私共議員にも反省会の資料を公開してもらいたい。それを検討し、来年さらにステージアップした全国選抜ゲートボール大会を計画したらどうか。

酒井勲一議員

イベントの継続を検討

答弁

先日は県当局よりお褒めの言葉をいただいた。ゲートボールの選手だけでなく、他の競技の選手も多数会場へお越しいただき、大きな経済効果があったと思っている。しかし、継続的な開催となるとうっしろしつかり精査をして、やるか、やらないか、検討をしたいと思っている。

職員給与の格差調整と 人事評価について

人事評価制度は19年度実施 を目指す

質問

合併後の職員給与の格差調整と職員に納得のいく人事評価の実施が職員の士気を高めることになり、伊豆市の発展に重要な因子との認識にたつて昨年6月議会で質問、提案した。前向きに検討するとの回答が出されたが、一年半経過した今、この二項目の進捗状況を伺う。

小野忠宏議員

答弁

現在、給与の不均衡是正に向けて、調整作業を進めている。今あるべき職務の級、号給と実際の職務の級、号給について調整する。調整時期は平成19年1月1日を予定。人事評価システムは、能力、実績に基づく評価制度を導入するものです。公正な評価ができるよう研究し、19年度実施を目指す。

吉田町入札改革に学ぶ

制度の見直しを準備中

質問

発注者と受注者の間に癒着を生じさせない。又、特別な業者だけの公共事業とさせない。この二つの目的で吉田町は改革しました。業者の猛反対はありましたが落札価格は下がり、町民には良い結果が出ています。伊豆市も積極的な改革を実行し、市民の利益を図るべきです。

三須重治議員

答弁

入札参加機会は、市内業者は原則的に条件があれば、全社指名の方向で行っている。競争性の確保推進、受注意思を考慮し、同時に的確な工事施工にも配慮しなければならぬ。平成19年度、20年度の競争入札参加申請にあわせ、事業者の格付けや公募による受注規模の反映など制度の見直しを準備している。

消防南署完成と、周辺 道路供用開始は同時に

計画通りの完成を目指して

質問

中伊豆、湯ヶ島、修善寺の三支署が統合して、田方消防南署としての機能を最大限発揮するには、周辺道路の整備と南署完成の同時が常識の範囲と考える。次の二路線の進捗状況は、一、市道32190号線（日向～大平線）
二、県道349号線（修善寺～天城湯ヶ島線）

加藤 章議員

答弁

市道日向～大平線は16年度より事業着手し鋭意進めており、狩野川に橋を架けるための橋脚が完成した。県道修善寺～天城湯ヶ島線は全体の道路ルートが決定し、12月に入り地権者70名の方に用地提供のお願いをしている。供用開始は、合併支援が終了する平成20年を予定しています。

下水道整備事業は計画の 見直しを

合併後に策定した マスタープランにそって

質問

下水道整備事業について、現在までに完成または建設中の区域の人口及び世帯数は全市の何%ですか。また現在までの総投資額と市の実質負担額はいくらかですか。今後の整備対象地域は人口密度が低く、一戸あたりの整備費用は割高になり、総投資額も巨額です。計画を見直す考えはありませんか。

小森勝彦議員

答弁

下水道の完成または実施中の区域の人口は、1万7,600人で47%です。現在までの総事業費は33.5億7千万円で、うち市の実施負担は72億3千万円です。下水道事業には多額の資金と、長期に渡る年数を要する。財政状況に見合った、各年度の事業量と合併浄化槽を併用し、事業を進めていきたい。

下水道会計と一般会計からの10億円繰り出しについて

推進のための処理

質問

特別会計は助成なしでまかなうべきだが、負担額が多く大変なため一般会計から多くの助成が繰り出されている。公債費8億円（元金4億8千万円、利子3億3千万円）については交付税償還（解説参照）があるものの、使用料、分担金の歳入は3億2千万円しかない。下水道事業と何ら関係のない5億円が一般財源から繰り出されているのではないか。

関 邦夫議員

答 弁

下水道事業の場合は、雨水流入なども考慮されることから、補助金とは別に下水道事業債の元利償還金について、交付税算入がある。平成18年度は3億6千万円が算入された。河川環境の改善対策としての下水道推進の考え方から、実質的な不足額に対し繰出している。好ましいものではないがやむを得ない処理です。

解説

借入金に対する交付税（地方交付税の交付）

地方交付税は、地方公共団体が、自主財源の多少にかかわらず、等しく標準的な行政サービスを実施するために必要な経費（基準財政需要額）と、標準的な状態において徴収することが見込まれる税収額（基準財政収入額）を算定し、収入の不足額を国税により補てんしようとするものです。

（地方議会運営事典参考）
下水道事業の借入金の元利償還金は、約半分の額が基準財政需要額に含まれて普通交付税が算定されます。

合併前の委員会、審議会等について

新市に引継ぎ活動

質問

現在まで会議を開いたことのない委員会等あるようだが、どうなっているのか。又、伊豆市土肥中央農道について、今後、事業をどのように進めていくのか、その他の委員会等についても、どのような対応をするのか伺う。

鍵山堅一議員

答 弁

旧町単位で設置してあった委員会、審議会は当然新市に引き継がれ事務を行っているが、理由があつて活動がされていないものもある。
土肥中央農道は、残り1,500メートルの三期工区が不採択になり、県では新たな事業の制度化により実施を検討している。

これからの市役所は

本庁への統合は未定

質問

財政がきびしくなっていく現状で、行政がサービスを充実させながら改革を進めていくために、次の点にどのような対策を考えているか。

一、各部の本庁への統合はいつ行い、県・国の出先機関との連携は。
二、平成19年4月に向け人員配置や業務担当の見直しは。

鈴木基文議員

答 弁

できるだけ速やかに本庁へ統合したいと思うが、いつまでにとりいう段階には至っていない。県との合同庁舎の話も、東部保健事務所修善寺支所の用地の活用について打診してあるが、正式な返事はいただいていません。組織面は、19年度は小幅な見直しで、20年度を改革の年度と考えている。

『伊豆市のいじめの実態と対応』

「教育長答弁から」

(1) いじめの実態

◆ いじめに関するアンケート結果
この事件が起きた時期にとった、教育センターの生徒指導に関してのアンケート。対象は市内小学校5、6年生と中学生で1,703人。無記名。

問1、「あなた自身やあなたのまわりで現在いじめがありますか」との間に「ある」と答えた児童は235人。

問2、「いじめかどうか分からないが気になることがあるか」の間に370人があると答えました。

先の問1で「ある」と答えた子どもと合わせると705人で35.5%になります。

これはいじめがあると感じた子どもの数で、いじめられている子どもの数ではありません。

本年度市内の小中学校で把握している「いじめ」の件数は、小学校30件、中学校8件です。

そのうち解決済みが小学校で25

件、中学校で6件。現在指導継続中が小学校で5件、中学校で2件です。

中には、クラスの中で誰彼区別なく悪さをするいじめっ子の例もありますし、全部がいじめに相当するかどうかは疑問な点もあります。

◆ いじめの種類は多種多様

● 言葉での脅し・冷やかし、からかい・仲間はずれ・持ち物を隠す・たかり・お節介、親切の押し付け・嘘のうわさを流す

● 集団による無視・暴力を振るうなどがあります。

文科省の定義は(平成6年)「自分より弱い者に対して、一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの」としていますが、本市では、些細なことでも受ける子どもにとっては大きな問題だということもありますので、個々の行為がいじめに当たるかどうかの判断基準は、「被害者がいじめと感

じらば『いじめ』と認識するようにしています。

時によっては、口げんかをして口を聞かなくなったとき、片方がいじめられていると感じることもあります。

(2) 学校での対応

学校では、「いじめは絶対許さない」という基本認識に立ち、道徳教育や体験的活動、自主的活動等を通して、人間としての「生き方」の学習をしていますし、単に加害者と被害者の二者の関係でなく、集団の問題としてとらえ対処するようにしています。しかし、正直

言っていじめをゼロにすることや、いじめ予防はなかなか難しい課題だと感じています。小さい頃から

の子育ての中で弱い者いじめの罪悪感や、命のあるものを大切に守る道徳心をつけることがいじめ防止の一番の方策かなとも思います。

◆ 具体的な対策について

① 学校は子どもに対し、いじめは反社会的な行為として絶対許されないことであり、かつ見て見ぬ振りをする者も加害者であることを徹底して指導

する。

② 学級経営を中心にいじめを生まない素地づくりに全力をあげる。

③ 学校は問題を起こす子どもに毅然とした対応をとる。

④ 学校は、子どもとの触れ合い、子どもへの声かけ、どんな小さなサインも見逃さないようコミュニケーションを図る。

⑤ 学校は「いじめ対策委員会」を活用し、組織として対応する。

⑥ いじめが発生するのは悪い学校ではない。いじめを解決するのがいい学校との認識を徹底する。

以上のことをお願いしています。

解決方法も指導の仕方によっては逆効果になってしまう可能性があります。難しい問題もあります。

各学校には「いじめ対策委員会」が設置されており、学級担任や担当者個人が対応するのではなく、組織として対応するようにしています。いずれにせよ、学校では「いじめられる児童生徒の側に立つ」ということは共通理解をしています。

12月定例会で意見書・決議を採択し関係機関に提出しました。

意見書・決議

有害鳥獣対策を求める意見書

〔提出先〕静岡県知事

市内では、近年、イノシシやシカ等の有害鳥獣による農林産物への被害が増加しています。市として、有害鳥獣等の被害防止に対する補助金交付を行っていますが、今年度は申請件数が11月までに159件と著しく増加し、市の財政に大きな負担となっています。県の補助金もありますが、認定する条件が厳しくほとんど受けられない状況です。そこで、県に対し以下のことを要望する意見書を提出しました。

1. 農林業被害の防除対策が実施できるよう、県補助事業の拡充。
2. 捕獲対策として、イノシシなどにおいても、特定鳥獣保護管理計画の早期策定。
3. 鳥獣の生息環境整備のための、森林整備等の促進。

飲酒運転の根絶に関する決議

交通事故のない安全で安心して暮らせる社会の実現は、私たち伊豆市民の長年の願いでもある。

本年8月に福岡市で発生した幼い3人の生命を奪った悲惨な交通事故は、飲酒運転の怖さを痛感させるものであったが、この後も全国で飲酒運転は続発し、大きな社会問題となっている。

飲酒運転を根絶するには、運転者のもとより、家族や職場さらには地域が一体となって、飲酒運転を絶対に許さないという強い意志を示さなければならない。

よって本市議会は、ここに改めて交通安全意識の徹底を強く呼びかけるとともに、市当局をはじめ関係機関・団体との連携を強め、市民や地域と一体となって飲酒運転の根絶に邁進するものである。 大仁警察署長に決議書を提出



◆行政改革特別委員会設置◆

市の行政改革の進捗状況の調査研究と併せて議会改革について調査検討するために、新たな特別委員会が設置され、以下8名の議員が選出されました。

- 委員長 小野忠宏議員
副委員長 小森勝彦議員
委員 杉山 誠議員 山下 一議員
加藤 章議員 鍵山堅一議員
木内一郎議員 大川 孝議員

◇その他の請願・陳情と結果◇

件名	結果
遠距離通学費補助制度の見直しを求める請願	継続審査
「乳幼児医療費無料制度の創設を求める意見書」採択を求める陳情	不採択
「妊産婦医療費助成制度の創設」を求める陳情書	不採択
療養病床の廃止・削減計画の中止を求める陳情書	不採択

総務委員会

〔平成18年10月18・19日〕

愛知県半田市は、にぎわいのあるまちを取り戻すために、回遊性のある中心商業地の再構築また活性化を目指し、まちづくりの専門家と商業者と行政の代表で組織する協議会を設置して一丸となり取り組みました。

半田市は、国際空港セントレアの影響や、名古屋市内に30分で行けるという地の利や、歴史や伝統、それに古くからの産業である酢（ミツカン酢）や、酒（国盛り等）など、活性化すべき材料が豊富にあります。

わが伊豆市もこれらの事を踏まえて活性化となる色々な材料を掘り起こす必要性を感じました。また、リーダーとなるべき人材の確保も必要であり、人づくりや人材発掘もしていくべきだと感じました。

吉田町の抽選型指名競争入札制度は、①行政当局が入札に参加する業者の選定に関与できない。②抽選という偶然性を2度取り入れ

た業者の選定によって、業者同士が談合し、落札者を決める事が極めて難しい。③町民が、客観的に請負業者が決定されるプロセスに対して、透明性を実感できる。ということをねらいとしています。

国民健康保険税については、吉田町の税率が静岡県下において高くなった要因として、基金の取り崩しが多くなり、残高がなくなる危険性が出てきたため、16年度に改定したとの説明がありました。

基本は受益者が応分な負担をすることが当たり前であるという事を理解していただく必要があると思われました。



入札制度改革について視察
(吉田町役場)

行政視察をしました

天竜川堤防決壊災害は昨年7月18日、19日にかけての総雨量529mmという豪雨により、諏訪湖を源とする天竜川右岸204.8km地点において約160mの区間の堤防が計画高水位を超え決壊したところです。

この災害復旧は、8月上旬には中部地建管内の各事務所から根固めブロック3,000個（通称テトラポット）を集め、約3億円を投入し復旧に当たったとのことでした。また、堤防の本復旧についてはさらに4億円というところで、総額8億円という大変大きな災害復旧事業であります。

今後、当狩野川においても地球温暖化等も加わり、同様の災害が危惧される中で災害対応用の資材の備蓄の重要性が感じられました。

また、天竜川上流砂防工事事務所では毎年砂防事業に50億円からの予算が投入されており、伊那谷

土木水道委員会

〔平成18年10月17・18日〕

区域では4つの砂防事業のための出張所で事業が実施されており、内、3つは南アルプス側、残り1つが中央アルプス側にあります。中央アルプス側は大変斜面が急峻であり、大きな土石流災害が発生しやすい地形なので予算の半分が投入されているとのことでした。

人的被害と自然災害を防ぐためこれだけの大きな投資がこの地域で行われていることに比べ、わが伊豆半島における伊豆縦貫道が遅々として事業費不足で進まないことに疑問を感じました。



天竜川堤防決壊災害復旧現場

修善寺小 6年生

議会傍聴へ行つてきました

◆私が伊豆市議会を傍聴してびっくりしたことは、若い人がいないことと、女の人が少なかったことです。大体の人がベテランという感じがして若い人がいなかったです。ほとんどの人が男の人で、もっとたくさんいると思っていて女の人が少なかったです。

この会議で一番知りたかったのは「どんなことを話し合っているのか。」です。いろいろなジャンルの問題を話し合っていました。例えば、道路のことや放置されている物件のことでした。たくさん問題がこの市にはあるんだなあと分かりました。でも、どんなジャンルでも自分だけのためにという問題は一つもありませんでした。議会を傍聴しているうちに、国語の勉強でする話し合いを思い出しました。自分から発表するのはすごくきんちょうします。なんでも話し合いの勉強なんかするのかなとか思ったりしたけど、こういう場で活することができるのが分かりました。来て良かったと思います。

◆私は、伊豆市議会を傍聴して、色々なことを学びました。ある意見に対して市長が答えなければいけないことは、議長が「〇〇議員の質問に答弁を求めます。市長。」など、指名して、それに対して市長は「はい、議長。」と、必ず返事をしていて、「すごいな」と、思いました。それと、みんな発表した意見や質問等をメモしたりして、いつ自分が指されても答えられるようにしていました。だから、クラスでの学級会等で意見を言う時には、メモしたりして、すぐに答えられるようにしたいと思いました。授業で使えることを学べたので、伊豆市議会を傍聴して良かったと思います。



熱心に議会傍聴をする修善寺小6年生

◆私は、はじめ議会に出席される議員さんたちは、みなさんこわい人だと思っていました。自分の意見を通すために、力強い表情をしているのだと思っていました。でも、開会前に廊下であいさつをしたり、笑顔で返してくれました。私の中のきんちょうは、一気にほぐれて、議員さんは優しいんだと安心しました。

でも、議場に入るとそのふん囲気は一転して、再びきんちょう感が走り、ふだんにぎやかな六年一組も、背すじを伸ばして、話し合いに聞き入ってしまいました。私は、今住んでいる市のことを議員の方々が決めてくれているおかげで、私たちが暮らしているらるので、本当に議員さんたちには感謝しています。ありがとうございます。

編集後記

本年は修善寺温泉開湯一二〇〇年祭や井上靖生誕百年の記念行事があり、市内外の皆様に楽しんでもらいたいと思います。すべてが変革の時。合併して四年目、新生「伊豆市」の飛躍の年にしたいものです。編集委員一同、今までの議会だよりを継承しつつ、変化も取り入れ、更に読み易く工夫してまいります。皆様のご意見をいただけたら幸いです。

委員長 古見梅子

議会だより編集委員会



森委員

加藤委員

酒井委員

鈴木委員

木内委員

杉山副委員長

古見委員長

山下委員